お申込みについて

※定員になり次第お申込みを終了いたします。

1 パソコン(各種検索サイト)からダイレクトで

セミナーID(半角数字) JMA 100411 で検索

もしくは、https://school.jma.or.jp/

※貴社の情報セキュリティ方針等でwebからのお申込みが難しい方は
JMAマネジメントスクールまでお電話にてお問い合わせください。
TEL：03(3434)6271

2 スマートフォン タブレットから

参加料(税込)	早期申込割引参加料 (6月30日迄)	通常参加料
日本能率協会 法人会員	671,000円/人 (税抜: 610,000円/人)	693,000円/人 (税抜: 630,000円/人)
会員外	726,000円/人 (税抜: 660,000円/人)	748,000円/人 (税抜: 680,000円/人)

※教材費・資料費、試験料が含まれており、通信費・ソフト購入費・交通費・宿泊費などは費用は含まれておりません。
※本事業開催最終日の消費税を適用させていただきます。
※法人会員ご入会の有無についてはHPをご確認ください。https://www.jma.or.jp/membership/
※参加申込規定はJMAマネジメントスクールのHP（https://school.jma.or.jp/）に掲載しておりますので、ご確認・ご同意のうえお申込みください。

定　員　20名(催行人数11名に満たない場合、中止することがあります)

講義・試験会場　講義：オンライン（ZOOMにて実施）
一部、日本能率協会研修室（東京都港区芝公園3-1-22）を予定
試験：日本能率協会研修室（東京都港区芝公園3-1-22）
※社会情勢によって変更する可能性があります。応相談可ですのでお気軽にご相談ください。

キャンセル規定　参加者のご都合が悪い場合は、代理の方がご出席ください。
代理の方もご都合つかない場合、
下記の規定によりキャンセル料をご請求いたしますのであらかじめご了承ください。

参加料の10%：開催30日前～8日前(開催日を含まず起算)
※但し、『テキスト、IEインストラクターマニュアルのいずれか』を小会から発送した時点で受講料の30%
参加料の30%：開催7日前～前日(開催日を含まず起算)
※但し、『テキスト、IEインストラクターマニュアルのいずれか』を小会から発送した時点で受講料の50%
参加料の100%：開催日当日

まずは
お問合せください！

申込に関すること(参加証・請求書・キャンセル・変更等)

JMAマネジメントスクール　TEL：03-3434-6271 (受付時間：月～金曜日 9:00～17:00 祝日を除く)
E-MAIL：seminar@jma.or.jp

プログラム内容に関すること(研修内容に関すること等)

一般社団法人日本能率協会
生産革新プロフェッショナルコース事務局
ＴＥＬ：03-3434-1410
(受付時間：月～金曜日 9:00～17:00　祝日を除く)
E-MAIL：seisan@jma.or.jp

Industrial Engineer
IE士資格認定制度
全日本能率連盟資格登録第25号

IE士資格取得講座

生産革新 プロフェッショナル コース

（IE士養成コース）

― 2022年度　受講案内 ―

磨き続けて「50年」、選ばれ続けて「50年」
IE士として単なる工程改善に終わらせない研修

JMA 経営革新を推進する 一般社団法人日本能率協会

“日本能率協会が進めるIE研修は、世界のどこでも通じる基本的なものです”

(2017年度受講者)

IE（インダストリアルエンジニアリング）とは

IEとはインダストエンジニアリング（Industrial Engineering、以下IE）の頭文字を取った略語で、「アイイー」と呼ばれています。

IEは、生産現場の動作研究を行う技術として生まれました。
人・材料・設備・エネルギー・情報の統合されたシステムを設計し、改善し、定着化するための基礎的な管理手法です。

IEでは、製造現場、製造工程での設計、改善、定着化を目指すなかで、“明示”・“評価”を行っていきます。
「製造現場はこのような生産性になります」
「このようなリードタイムで出来、このような品質になります」
ということをきちんと明示します。
明示すると、実際に出てきたものがそのとおりになっているかどうか評価できます。
その際、工学上の分析や設計原則と技法、数学、自然科学、社会科学などにおける専門知識や技法などを使います。

上述の内容から「限られた人だけが扱える手法」のように思われるかもしれません。
しかし、活用する知識・技法は、数学だけ、物理だけ、科学だけ、ではなく、何でも良いのです。
つまり、生産システムを対象に改善や定着化、評価をするために活用される、あらゆるものがIEと呼ばれます。

そう考えると、IEを活用していない会社はないはずです。
みなさんは特別に意識をしていないかもしれませんが、毎日IEに触れているのです。

生産革新プロフェッショナルコースとは

日本能率協会の考える「生産革新プロフェッショナル人材」とは、
「**IEに関する知識**に加え、自社の強み、エンジニアリングチェーン、サプライチェーン全体の流れを**視野広く捉えた知識を持ち、生産革新を実現する行動ができる**リーダーシップを持つ人材」です。

本研修では、3か月間のプログラムを通して、IE士資格習得の知識習得だけではなく、今後の生産革新活動を担うリーダーシップや視野の広さを培います。

”「現場の効率性を評価するための各ツールを学ぶ」という以上に「マネジメントの部分で必要とされること」に多くの気づきがありました”

(2021年度受講生)

受講者の声

ものづくり研修所でIE関連のインストラクターを担当することになり、過去の偏った知識をリフレッシュしたいと思いました。実際受けてみて、講師の話も分かりやすいし、メンバーも皆さん優秀な方が集まってきていたので、とても刺激になりました。

工場全体の目標数値を、現場レベルの数字にまで分解する流れが非常にわかりやすかったです。
生産性の見方、考え方を学べたことが大きな収穫でした。改めて目標の見直しをしたいと思います。

基本ができていない人は遠回りし、残業を何十時間もするなど効率が悪くなってしまいます。
自己流の人もいますが、自己流には限界があります。
研修ではIEの基礎的な技術や考えが学べたとともに、新しい視点に気づくことができました。

SCMや調達については今まであまり関与してこなかったため、勉強になりました。
工場改善をしていくうえで、調達担当者と一緒に学んでいきたい内容でした。

角田　賢司
株式会社日本能率協会コンサルティング
シニア・コンサルタント

講師から皆さまへ

「生産革新プロフェッショナルコース」では、IEだけに限らず、幅広い知識を身につけていただけるような工夫をしています。

例えば、購買の領域やサプライチェーンの領域、あるいは品質、量産立ち上げといったテーマも取り入れ、製造現場のみならず、周辺領域にまで視野を広げていただくような講義内容となっています。

この研修で学んでいただき、IE士として認定されれば、現場で使える手法がたくさん身につくと思いますし、これまでと比べて実践力も高まった状態でそれぞれの職場に戻っていただけるのではないかと思っています。

修了者の方々や講師のインタビューはWEBサイトからもご覧いただけます

生産プロコース　検　索

URL
https://jma-iepro.com/

各単位詳細・ポイント

生産革新実現のためのマネジメント技術・リーダーシップを習得

第1単位

ものづくり改革のためのマネジメント技術

・経営課題とものづくり改革
・ものづくり改革の目標設定と目標管理
・ものづくり改革の重点課題

ポイント 目標管理技術を中心に、目標設定、施策選定、実行計画、実績管理について
ミドルマネジャーの役割と進め方を学ぶ。

生産革新実現のために視野を拡大

第2単位

ビジネスモデルに基づくQCD目標の設定

・勝ち続ける企業のポイント「差別化」
・勝ち続ける企業の目標設定（企業事例）

開発・生産融合の超垂直立ち上げ技術
～オンリーワン商品の迅速な市場投入のために～

・短サイクルで新製品を立ち上げるには
・量産準備・立ち上げ段階での課題と対策
・量産化技術開発の課題と対策
・量産立ち上げ段階での品質安定化策

マネできないものづくり戦略の考え方

・これまでのものづくりの問題
・マネできないものづくり戦略の考え方
・なぜ技術で卓越して、儲けにつながりにくいのか？

ポイント ビジネスの強みをどこで発揮するかを勘案したQCD目標の設定方法と、
短サイクルで新商品を立ち上げるための工場の役割と技術を学ぶ。
高品質実現の技術と現場マネジメント方法等について学ぶ。

講師陣は現役の生産コンサルタント！

石田 秀夫	日本能率協会コンサルティング	シニア・コンサルタント（第2単位、スクーリング）
伊庭 栄	日本能率協会コンサルティング	シニア・コンサルタント（スクーリング）
武田 啓史	日本能率協会コンサルティング	チーフ・コンサルタント（第3単位、スクーリング）
角田 賢司	日本能率協会コンサルティング	シニア・コンサルタント（第1・4・5単位、スクーリング）

ものづくり力強化による競争優位を実現する

第3単位

顧客要求と経営効率を向上させる製品供給力の強化（SCM）

・SCM改革の必要性
・SCM改革成功のポイント
・在庫削減の基本的な考え方

調達コストダウン

・ものづくりによる調達の機能
・戦略的内製化／外製化編成の考え方
・競争購買の取組み
・査定購買と調達先強化

ポイント 購買技術（サプライヤーの評価、価格査定等の技術）について学ぶ。
SCMにおける工場の役割と技術について学ぶ。

第4単位

人と設備を対象とした生産システム改革と人材活用

・生産性向上とコストの関係
・スキル伝承の仕組みづくり
・生産性向上のレベルと対象
・生産システム決定の判断要素
・情報システムと生産システム
・派遣活用の手順
・生産量の変化と生産性向上の関係
・職場の特性と生産性の構造
・生産性向上のための生産システム
・設備に着目する生産性
・賃金と雇用形態

ポイント 生産性向上について、生産システムの選択方法や作業者（派遣含む）の
スキル伝承について学ぶ。

第5単位

構内物流改革、材料歩留まり改革のアプローチ

・構内物流改革の2つのアプローチ
・材料歩留まり向上 ～歩留まりの構造と改善ステップ～
・工場間移送
・倉庫管理と現品管理
・出荷業務設計
・製造経費低減～コスト発生構造と改善手法～

ポイント 構内物流の効率化を、材料供給、仕掛品搬送、製品搬送について学ぶ。
歩留まり向上、経費低減についてポイントに触れる。

※講師・研修内容は都合により変更する場合があります。予めご了承ください。

2022年度 会期

会　期　2022年　10月7日（金）　開講式・オリエンテーション
～
2022年　12月16日（金）　IE士認定試験・修了式

※オンラインLIVE講義(講義、面談)、認定試験(実地)、
およびオンデマンド講義受講(5単位分)を含む

会　場　講義：オンライン（ZOOMにて実施）
一部、日本能率協会研修室を予定
試験：日本能率協会研修室

※社会情勢によって変更する可能性があります。応相談可ですのでお気軽にご相談ください。

対　象　生産・製造部門のマネジャー、リーダーとその候補者
社内研修講師、ものづくり教育担当

※製造・生産部門や関連部門での実務経験が5年以上の方、改善・改革業務を
行われたことのある方を対象しておりますが、詳しくはお問合せください。
場合によってはお申込をお断りさせていただくこともございます。予めご了承ください。

このような方が受講しています

課題・ニーズ

■デジタル人材を育成する前に、
ものづくりの「原理原則」を学びたい
■「SCM、ECMの改善、連携のヒント」を体系的に学びたい
■工場全体の目標数値や指標を見直し、
改善・改革・投資の立案、実行したい
■勘・コツ・経験の職人作業を脱し、生産体系を確立したい
■IEを学び、海外拠点の生産性向上を目指したい
■IEの知識を学ぶだけでなく、社内に伝えていきたい
■現場でIEを実践できる人材を育てたい

受講者所属部署

生産本部、生産企画、生産技術、生産管理、
品質保証、品質管理、生産革新推進、
研修センター、ものづくり塾、SCM、物流、
購買、資材…など

※生産・製造部門からのご参加率が多いですが、
その他の部署からもご参加あります。
ご不安な場合はご相談ください。

過去の参加企業（一部・順不同）

■**医療・医薬品、　精密機器**
テルモ／長野オリンパス／帝人ファーマ／日廣薬品／ダイト
■**システム、機械加工、設備、空調**
川重冷熱工業／ダイキン工業／ CKDフィールドエンジニアリング／ノーリツ／積水エンジニアリング／オムロン
■**自動車、自動車関連部品・機器・物流**
トヨタ自動車／エイ・ダブリュ・サービス／エフ・シー・シー／日清紡ブレーキ／アルプスアルパイン
■**総合電機、電気電子、半導体、モーター、機械加工**
三菱電機／日立製作所／シチズン電子／アルバック／マブチモーター／ミスミグループ本社／ニコン
日立ハイテクマニファクチャ&サービス／京セラ／セイコーエプソン／リコーインダストリー／新川センサテクノロジ
■**インフラ・建築・施設・物流**
東京電力ホールディングス／大成建設／オリエンタルランド／阪急阪神エクスプレス
■**繊維、化学、金属、素材**
カネカ／帝人／グンゼ／ポリプラスチックス／堺化学工業
■**その他**
YKK ／大和グラビヤ／河合楽器製作所／タニタ秋田／凸版印刷／グローブライド／ハマイ など

"単なる工程改善を学ぶのではなく、
『サプライチェーン全体で改革する』ということを学べた"
（2021年度受講生）

コースのポイント

① ものづくり・現場の原理原則をIEから学ぶ

サブ教材として
「IE基礎テクニック習得コース」「IE基礎分析手法習得セミナー」
の特典講義（オンデマンド動画・無料)がついています。

IEの概念論だけでなく、実践的かつベーシックな改善手法を
体系的な学び直しや、現場経験のみで、IEを学習したことのない方も
安心してご活用いただけます。

② 単なる工程改善(部分最適)から生産革新（全体最適）の視野へと広げる

生産・製造だけではなく、開発・購買・物流などサプライチェーンを
俯瞰した知識や、経営・現場の管理・評価手法やマネジメント、
競合との差別化等の経営戦略なども学び、目先の現場改善ではなく、
工場そして企業全体の改善活動へ視野を広げます。

③ 社内のIEを指導・育成するキーパーソンに必要な教育内容を学ぶ

IE基礎テクニックの教え方や、すぐに使える分析シート等を収録した
"IE教育の虎の巻"「IEインストラクターマニュアル」は、
社内研修でも利用でき、講師としてのスキルアップが図れます。

理解深まるカリキュラム

リアルタイムに質問、他参加者の視点がわかる
スクーリング

試験日まで、何回も復習できる
オンデマンド講義

受講スケジュール

★ 原則欠席不可

※進行の都合等によりカリキュラムや所要時間に変更がある場合がございます。予めご了承ください。

スクーリング

10月7日（金） 13:00～17:00
【開講式
オリエンテーション】
・自己紹介
※事前にパワポ作成
いただき、投影します
・概要説明
・受講の流れ
・提出物の案内
・IE士認定条件
通学

10月26日（水） 9:00～17:00
【講義内容】
・事前課題に基づき
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
自社事例共有、
質問/相談事項抽出など
・講師解説
【個人レポート作成相談】
【次回案内】
【IEインストラクター
模擬講義準備】
オンライン LIVE受講

11月16日（水） 9:00～17:00
【講義内容】
・事前課題に基づき
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
自社事例共有、
質問/相談事項抽出など
・講師解説
【個人面談の案内】
【次回案内】
【IEインストラクター
模擬講義準備】
オンライン LIVE受講

12月1日（木） 9:00～17:00
【講義内容】
・事前課題に基づき
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
自社事例共有、
質問/相談事項抽出など
・講師解説
【次回案内】
【IEインストラクター
模擬講義準備】
オンライン LIVE受講

12月2日（金） 9:00～17:00
【IEインストラクター
模擬講義本番】
【IE試験対策と傾向】
・IE士認定試験(筆記)の
試験対策
・質疑
【次回案内】
オンライン LIVE受講

12月14日（水）,15日（木） 9:30～17:00
【個人面談】
・個人レポートを基に
発表/質疑応答
※30分程度/人
※面談時のみ参加となり
既に面談終了した方は
対象外となります
オンライン LIVE受講

12月16日（金） 13:00～17:00
【IE士認定試験（筆記）】
・筆記試験 (90分)
【修了式/閉講式】
・認定証授与
・講師より総括
※通学が難しい方は応相談
通学

オンデマンド講義

第1,2単位の事前課題提出

	内　容	所要時間
第1単位	モノづくり改革のための マネジメント技術	約４時間 オンデマンド動画受講
第2単位	ビジネスモデルに基づくQCD目標の設定 開発・生産融合の超垂直立ち上げ技術 マネできないものづくり戦略の考え方	約５時間 オンデマンド動画受講

第3,4単位の事前課題提出

	内　容	所要時間
第3単位	顧客要求と経営効率を向上させる製品供給力の強化 調達コストダウン	約５時間 オンデマンド動画受講
第4単位	人と設備を対象とした生産システム改革と人材活用	約４時間 オンデマンド動画受講

第5単位の事前課題、個人レポート提出

	内　容	所要時間
第5単位	構内物流改革、材料歩留まり改革アプローチ	約４時間 オンデマンド動画受講
個人レポート	個人面談にむけての 自身が業務で取組んだ 改善・改革に関するレポート作成 ※個人面談は30分程度/人 発表10分 講師からの質疑受け答え20分	

※所要時間は視聴と事前課題作成時間を加味しています。

IE士認定条件

下記を総合的に評価し、IE士認定をいたします。

- **IE士認定試験（筆記試験）**
- **個人面談の講師評価※**
（個人レポート内容、発表、講師からの質疑受け答え）
- **IEインストラクター発表の講師評価**
- **スクーリング出席率**
- **課題提出率**

※参加者本人が関わった自社の改善事例や経歴書等を個人
レポートとしてご提出いただき、それに基づき面談をします。
レポートの詳細および作り方はスクーリング内で解説します。